

協働のルールづくりの検討を終えて

本格的な地方分権化の時代を迎え、住民参加による個性あるまちづくりが課題となっています。高岡市においても、「行きたいまち、住みたいまち、みんなで作る協働のまちづくり」が市政の大きな課題に位置づけられ、市民がいきいきと活動し、真に心の豊かさを実感できるまちの実現が求められています。

高岡における「市民協働のまちづくり」は、今から実に400年前の慶長年間に、「開町の祖」前田利長公と城下の「町衆」によって始まりました。この「開町の精神」ともいべき「市民協働」を、21世紀の今日にふさわしい姿で推進し、新しいまちづくりへと発展させていくことは、代々引き継がれてきた市民と行政にとっての「歴史の宿題」であるとも言えます。

「高岡市協働のルールづくり検討委員会」には、市民生活の各分野で精力的に活動しているメンバーが委員となり、市民の視点に立って「協働のルールづくり」に取り組んで来ました。先進地の事例や富山県のガイドラインなども参考にしながら、メーリングリストによる毎回の宿題、市民団体との意見交換会など協働の委員会にふさわしい独自の工夫も行いました。

この提言書は、協働の理念・基盤から推進課題まで、協働を推進していく上での基本的な考えと具体的方策について、現時点で考えられる限りの内容と水準で取りまとめたものです。今後、市民と行政の協働の指針として活用されると同時に、協働の実施と発展に伴って、随時修正・補正が加えられ、高岡市の市民と行政の共有財産にまで高められていくことを切望します。

平成 18 年 10 月

高岡市協働のルールづくり検討委員会

委員長 宮 田 伸 朗